

[013]九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター

<https://doi.org/10.15017/2544993>

出版情報 : 九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター. 13, pp.1-, 2019-03. Manuscript
Library, Kyushu University Library

バージョン :

権利関係 :

NEWSLETTER

九州大学附属図書館付設記録資料館 ニューズレター

ISSN1881-879X

2019 **VOL. 13**

CONTENTS

●記録資料館とは	1
●利用案内	2
●主な収蔵資料の概要	3
産業経済資料部門	
九州文化史資料部門	
法制資料部門	
古文書・古記録部門	
●トピック	9
「さよなら箱崎キャンパス企画展示 金田平一郎と九州大学附属図書館」	
●刊行物紹介	10
産業経済資料部門	
九州文化史資料部門	
●平成30年活動記録	11
●編集後記	11

『福岡城下町・博多・近隣古図』 (223.2×266.5cm)

文化9年(1812)写
三奈木黒田家文書(九州文化史資料部門所蔵)
九州大学附属図書館ホームページでデジタル化画像を公開
しています。1800年頃の城下町福岡と商人の町博多の様子
がわかります。



記録資料館とは

記録資料館は、石炭研究資料センター、旧九州文化史研究所等の関連施設を統合し、2005（平成17）年4月に設置されました。「産業経済資料部門」「九州文化史資料部門」「法制資料部門」「古文書・古記録部門」の4部門で構成されています。九州大学がこれまでに蓄積してきた歴史資料を整理・保存し、研究と教育への活用、社会への公開を進めています。貴重な歴史資料を未来へ継承していくことが使命です。



旧法文学部本館（大正13年竣工）。九州文化史研究所はこの建物の半地下の部屋からはじまりました。

前史

1924(大正13)年	九州帝国大学法文学部設置。
1934(昭和9)年9月	法文学部内に九州文化史研究所設置。
1949(昭和24)年5月	産業労働研究所設置。
1951(昭和26)年3月	『九州文化史研究所紀要』創刊。
1955(昭和30)年2月	『九州史料叢書』創刊。
1956(昭和31)年6月	『九州文化史研究所所蔵古文書目録』刊行開始。
1965(昭和40)年4月	文学部附属九州文化史研究施設設置。
1973(昭和48)年5月	『エネルギー史研究ノート』創刊。
1979(昭和54)年4月	石炭研究資料センター設置。
1980(昭和55)年3月	『石炭研究資料叢書』創刊。
1994(平成6)年4月	大学院比較社会文化研究科内に九州文化史資料室設置。
1997(平成9)年3月	『九州文化史研究所史料集』刊行開始。
2000(平成12)年3月	九州文化史資料室廃止。



石炭研究資料センター外観（旧法文学部演習棟）
記録資料館設置後は産業経済資料部門となりました。



保存図書館（旧附属図書館本館、大正14年竣工）産業経済、九州文化史、古文書・古記録部門各部門の資料を保管していました。

沿革

2001(平成13)年6月	九州大学文書館設置準備委員会設置。
2004(平成16)年6月	記録資料館・大学史料室検討会開催。
2005(平成17)年1月	記録資料館設置構想提案。
2005(平成17)年4月	九州大学附属図書館付設記録資料館設置。
2007(平成19)年3月	記録資料館ニューズレター創刊。
2008(平成20)年2月	産業経済資料部門資料移転。
2008(平成20)年9月	旧玉泉館古文書、檜垣文庫移設。
2017(平成29)年9月	キャンパス移転に伴い記録資料館閲覧停止。
2018(平成30)年8月	伊都キャンパス新中央図書館へ移転。
2018(平成30)年10月1日	伊都キャンパスにおいて記録資料館供用開始。

利用案内

開館時間

産業経済資料部門

月曜日～金曜日
10:00～12:00, 13:00～16:30

※ただし、祝日、年末年始、特別整理期間をのぞく。

九州文化史資料部門

月曜日～木曜日
10:00～12:00, 13:00～16:30

※ただし、祝日、年末年始、特別整理期間をのぞく。



利用方法

- 資料の閲覧は事前予約制となっております。資料をご利用の際は、原則として一週間前までに下記各部門へご連絡をお願いいたします。
- 法制資料、三苦文書、檜垣文庫古文書については九州文化史資料部門へお問い合わせください。

問い合わせ先

産業経済資料部門

電話:092-802-6293

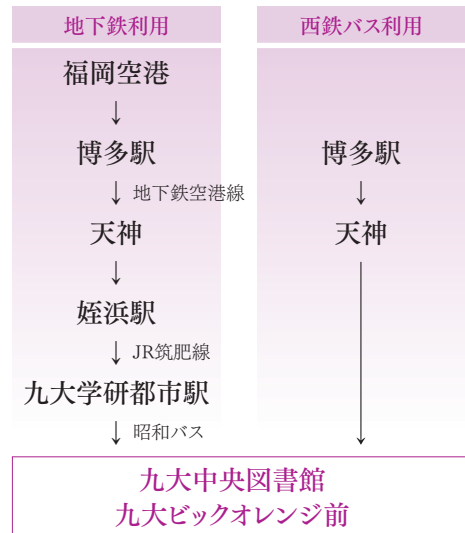
メール:sekitan@lib.kyushu-u.ac.jp

九州文化史資料部門

電話:092-802-6294

メール:bunka@lit.kyushu-u.ac.jp

交通案内



※博多駅より約60分。

交通案内



主な収蔵資料の概要

産業経済資料部門

産業経済資料部門は、産業労働研究所(1949年～1979年)、石炭研究資料センター(1979年～2005年)を前身とした部門です。日本の近代化を支えた九州の石炭産業に関する史資料を中心に、近世から近現代までの幅広い記録資料を収蔵しています。現在、収蔵資料の規模は、文書箱約7000箱、書架延長2.8km余り、近世・近現代の日本の産業経済資料に特化した収蔵機関としては全国的にも有数の規模と内容を誇ります。

収蔵資料の多くは、1970年代以降、地域社会と九州大学の深いつながりによって集められたものです。1950年代に始まる「エネルギー革命」は九州北部の産炭地にも大きな影響を与えました。数百を数えた炭鉱は続々と閉山し、炭鉱を核に生み出された人々の日常と地域社会の様相も急速に変貌していきます。そのなかで地域の歴史に関わる膨大な史資料も散逸していきますが、その一部が地域の人々や関係者の尽力によって、唯一無二の記録資料として九州大学に保管されることになったのです。

主な収蔵資料としては、筑豊御三家の一つ麻生家の江戸時代から昭和戦後までの膨大な経営資料である麻生家文書、労働運動家の宮崎太郎氏が各地の組合・会社資料を収集した戦後炭鉱経営資料、戦後労働運動の転換点となった三池争議に関わる三池炭鉱労働組合資料などがあります。これらの資料の目録は、『九州石炭礦業史資料目録』(第1集～第12集、西日本文化協会、1975-86年)のほか、当部門発行の『エネルギー史研究』・『石炭研究資料叢書』などに収載されています。また、未公開の目録情報の一部は、当館備え付けのカード目録・仮目録などで検索可能です。

(産業経済資料部門 古賀康士)



麻生家文書

筑豊御三家の一つ麻生家の資料群。

筑豊の石炭産業はもとより、九州北部の幕末から近現代の歴史を物語る地域資料としても貴重である。

表 産業経済資料部門の主な収蔵資料(2019年3月現在)

No.	資料名	数量	年代	摘要	検索手段
1	相原安津夫名誉教授寄贈資料	130	近現代	北部九州炭坑・地層柱状図、刊行物など	仮目録
2	麻生家文書	約15,000	近世～近現代	筑前国嘉穂郡立岩村の豪農・炭鉱経営関係資料など	①～⑩、カード、仮目録など
3	麻生セメント株式会社資料	3,470	近現代	第二次大戦前麻生商店・関連会社会計帳簿	仮目録
4	岩崎家資料	561	明治10年代～昭和戦前	遠賀郡香月村岩崎炭鉱などの経営資料	カード
5	大串家資料	約1,000	文化9年～大正期	肥前国杵島郡の名望家資料、福母炭鉱の経営資料など	⑨⑩
6	沖浜塩田資料	57	明治31年～昭和5年	岡山県邑久郡鹿忍村沖浜(現牛窓町)の塩田関係資料	仮目録
7	奥田八二資料	216	昭和9年～昭和戦後	福岡県知事などを務めた奥田八二の資料	エ33
8	杵島礦業株式会社資料	約2,000	明治～昭和戦後	昭和30年代以降、閉山後の残務処理資料など	④⑤⑧
9	九州産業労働科学研究所蒐集資料	約1,000	昭和戦後	中小炭鉱失業者調査資料、方城炭鉱労組資料など	⑥～⑧
10	九州大学産業労働研究所蒐集資料	約400	近現代	日本石炭坑夫組合資料、明治炭業資料など	①、カード
11	九州北西部炭鉱関係図	約1,500	近現代	九州北部の炭田調査図など	仮目録
12	栗山炭業株式会社資料	421	昭和戦後	大平炭礦(長崎県旧小佐々町)の経営・労務・閉山関係資料	仮目録
13	小林炭業株式会社資料	約1,000	大正・昭和戦前期	新手法炭坑(福岡県中間町)などの中小炭鉱経営資料	仮目録
14	島津家資料	219	文政13年～大正14年	豊前国田川郡三盤船庄屋資料、川歸・石炭輸送関係	⑦
15	清水家資料	158	大正・昭和戦前	勝田炭鉱(福岡県粕屋郡宇美町)の経営資料	⑦
16	石炭炭業合理化事業団資料	123	昭和30年代～同50年代	九州支部関係資料、杵島炭礦、大正炭業、新明治炭業関係など	⑫
17	戦後炭鉱経営資料(宮崎文庫)	約10,000	近現代	労働運動家宮崎太郎氏の収集資料、九州各地の炭鉱労働組合旧蔵資料など	①～⑩、仮目録
18	高倉炭業岩屋炭鉱資料	375	近現代	岩屋炭礦(佐賀県旧相知町)関係資料、図面資料ほか	仮目録
19	高島炭鉱労働組合資料	約3,350	昭和20年代～同61年	三菱高島炭業所の労働組合資料	仮目録
20	高取合資会社資料	386	大正～昭和戦後	唐津の炭鉱主・高取家の経営資料	仮目録
21	大日炭業株式会社資料	665	近現代	大日炭業株式会社(佐賀県伊万里市)の経営・閉山関係資料	カード
22	田辺実氏関係資料	637	大正～昭和戦後	元炭鉱技術者(日炭遠賀礦業所など)の関係資料	カード
23	中興炭業株式会社資料	707	昭和10年代～同50年代	福島炭鉱・鯛之鼻炭鉱(長崎県北松浦郡旧福島村)関係資料	仮目録
24	日本石炭協会九州支部資料	約2,500	近現代	日本石炭協会九州支部の旧蔵資料	カード
25	日本炭礦株式会社高松礦業所労働組合旧蔵資料	760	昭和戦後	日炭高松労組の旧蔵資料	⑤⑥
26	日本炭鉱労働組合九州地方本部資料(九炭労資料)	638	近現代	炭労九州地方本部(九炭労)資料	⑧
27	橋本悦蔵氏資料	364	大正～昭和10年代	九州地方中小炭鉱の技術者橋本氏関係資料	⑦
28	北松強粘株式会社資料	971	昭和10年代～同50年代	長崎県北松浦郡本ヶ浦炭鉱の経営・閉山関係資料	仮目録
29	松岡家資料	547	明治21年～昭和10年代	三菱上山田炭鉱(福岡県嘉穂郡)の経営関係資料、医療関係資料	⑪、カード
30	三井三池炭鉱労働組合旧蔵資料(三池労組20年史編纂資料)	299	昭和戦後	三池労組20年史編纂関係資料	⑥
31	三池炭鉱労働組合三川支部資料	2,245	昭和20年代～同30年代	三池労組三川指導部の旧蔵資料	⑩
32	三池炭鉱労働組合本部資料	2,660	昭和20年代～同50年代	三池労組本部の旧蔵資料	⑫
33	宮崎太郎氏資料	454	明治期～昭和戦後	労働運動家宮崎氏収集資料	⑦
34	明治炭業明治佐賀事務所資料	480	昭和30・40年代	新明治西杵炭鉱・明治佐賀炭鉱の閉山処理資料	⑦
35	山野炭業爆発事故訴訟資料	744	昭和20年代～同40年代	昭和40年ガス爆発事故の山野炭業(福岡県嘉穂郡)側訴訟関係資料	⑨
36	三菱端島礦業所資料	5,083	昭和戦後	三菱石炭礦業端島礦資料	⑧⑨⑩⑪
37	三宅亮三郎氏資料	47	大正6年～昭和5年	南九州鉄道株式会社撫順炭鉱經理掛三宅氏資料	仮目録
38	村井家文書	(未詳)	近現代	山口県都濃郡旧太華村の酒造業・塩田経営などの資料	エ21、エ23
39	三池炭鉱労働組合解散資料	約2,100	現代	解散時の裁判関係資料など	仮目録
40	熊谷恒夫文書	526	1950年代～1990年代	福岡県労働組合評議会関連資料	エ25
41	戦時資源調査関係資料(戦時資源資料)	237	大正14年～昭和19年	三井物産の東南アジア資源調査関係	エ24
42	特許明細書関係資料	約1,500	明治期～昭和20年代	特許明細書	仮目録
43	杉山資料	約9,500	近現代	杉山茂丸・夢野久作・杉山龍丸関係資料	仮目録
44	中楯理重写真資料	21	近代	中楯理重(長崎県松浦市初代市長)の三菱炭業労務課勤務時の写真資料	仮目録

注:産業経済資料部門所蔵資料のうち整理済のものを中心に主な資料群を示した。No.1～37は石炭研究資料センター収集資料、No.38～44は産業経済資料部門収集資料である。

前者は五十音順、後者は受入順に配列した。

資料名は受入時・初出時の資料名を記載し、別名・略称がある場合は、()内に付記した。数量には、史料の件数ないし点数(枝番史料を含む)を示した。未整理史料は数量に含めていない。年代は資料群の上限・下限を示したが、今後の調査によって変更する可能性がある。

検索手段のうち、①②③・・・など丸数字は、『九州石炭礦業史資料目録』の巻数、「エ」は『エネルギー史研究』の号数、「カード」「仮目録」は、当館備え付けのカード目録・仮目録を示す。

九州文化史資料部門

九州文化史研究所が創設以来蒐集してきた古文書のうち、冊子目録が刊行されている各文書群の概要です。このほか、手嶋家文書(日田商人、381点)、諸岡家文書(唐津藩領大庄屋、542点)、名護屋松尾文書(唐津藩領大庄屋、300点)・名護屋組文書(同、312点)、九州文化史ZB資料(1828点)については九州大学附属図書館ホームページ・九大コレクション・貴重資料において目録を公開しています。また、カード検索によって閲覧が可能な史料として六角文書(小倉藩領大庄屋)、友枝文書(同)、永井文書(同)や、矢賀部文書(久留米藩領大庄屋)などがあります。

凡例 『九州文化史研究所蔵古文書目録』は『目録』と巻号のみ略記しました。

長沼文庫

長沼賢海(1883—1980)元九州帝国大学法文学部教授が多年にわたり採訪蒐集した瀬戸内および九州地方の水軍や浦方に関する古文書の謄写本。概数5000点。1949(昭和24)年に九州文化史研究所が購入しました。『目録1』に収録。

笹尾家文書

山口県厚狭郡厚狭町笹尾政信氏(当時)旧蔵。笹尾家は厚狭村(町)の庄屋・年寄・目代・畔頭等を勤めました。土地・金融関係の史料。概数300点。1951(昭和26)年に寄贈を受けました。『目録1』に収録。

元山文庫

島原半島加津佐の元山元造氏が収集した古文書。キリシタン史料・商業史料・貿易史料・島原藩史料・遊女史料など内容は多岐にわたります。概数3000点。1951(昭和26)年に譲り受けました。『目録2』に収録。『九州文化史研究所史料集3 長崎実記年代録』参照。

写本類

九州文化史研究所所員が1930年代より九州各地を採訪蒐集した謄写本。中世文書、近世九州諸藩、天領、其他近世諸藩など。概数2600点。『目録3』に収録。梶嶋政司「草創期九州文化史研究所の史料収集活動」『九州文化史研究所紀要 第49号』参照。



清末文書

宇佐宮領豊前国到津庄清末名清末家に伝わった文書。清末家は近世には到津村庄屋、近代には板櫃村村長等を勤めました。中世文書のほかに近世庄屋文書、近代村行財政史料が数多く含まれています。概数1300点。1955(昭和30)年に清末襄氏より譲り受けました。『目録4』に収録。『九州文化史研究所史料集7 清末文書』参照。

森文書

長崎外国人居留地の地主惣代森家に伝来した史料群。居留地関係の諸帳簿のほか絵図類があります。概数320点。1953(昭和28)年に森伊三次氏より譲り受けました。『目録4』に収録。

乙島守屋家文書

天領備中国浅口郡乙島村の庄屋を勤めた守屋家に伝来した文書群。乙島村は天領米の集散地、大坂廻米の中継地として、瀬戸内海上交通の要衝でした。近世後期には新田開発が進みます。概数8600点。1939(昭和14)年に九州文化史研究所が譲り受けました。『目録5』に収録。

松木文庫

近世貿易都市長崎に関する史料群。昭和29年度文部省科学研究費機関研究(代表者箭内健次)によって長崎市松木長兵衛氏より購入し九州文化史研究所に移管したものです。長崎平戸町乙名石本家旧蔵文書が含まれます。概数820点。『目録6』に収録。『九州史料叢書 長崎平戸町人別帳』参照。

古賀文庫

近世貿易都市長崎に関する史料群。昭和29年度文部省科学研究費機関研究(代表者箭内健次)によって長崎市唐島喜徳氏より購入し九州文化史研究所に移管したものです。古賀十二郎氏旧蔵史料。紅毛通詞関係史料、長崎関係記録等を多数含みます。概数550点。『目録6』に収録。

林田文書

筑後国田主丸の在郷商人林田家に伝来した文書群。林田家(手津屋)は寛政年間に廻船業によって発展し、大坂廻米など久留米藩財政運営に密接に関わり業務を拡大しましたが、文化11年の空米事件以後経営を縮小します。概数7000点。1962(昭和37)年に林田守保氏より寄贈を受けました『目録7』、「林田家文書目録(第二次調査)」『九州文化史研究所紀要 第53号』に収録。

佐々家文書

佐々干城が関与した明治期の熊本海運会社の史料を中心に、干城の弟で政治家であった友房の関連史料も含まれます。概数2000点。1957(昭和32年)に佐々弘之氏より寄贈を受けました。佐々弘雄(元九州帝国大学法文学部教授)は友房の三男です。『目録8』に収録。

権藤家文書

筑後国三井郡小森野村庄屋を勤めた権藤家の文書群。近世後期から明治大正期の私的経営帳簿。概数500点。1961(昭和36)年に購入しました。『目録8』に収録。

秋月黒田家文書

秋月藩主黒田家に伝来した文書群。秋月藩は元和9年に福岡藩から5万石を分知された長興よりはじまります。概数2100点。1956(昭和31)年に黒田長敬氏より購入しました。『目録9』に収録。秋月黒田家文書は朝倉市秋月博物館にも分蔵されています。

千原家文書

千原家は豊後国天領日田にあつて西国筋郡代の掛屋を勤めました。1930年代以来の「日田金」研究における基本史料です。概数1万5000点。1934(昭和9)年に九州帝国大学が購入しました。『目録10・11・12』に収録。木村忠夫「千原幸右衛門日記(1)・(2)」『九州文化史研究所紀要 第17号・第18号』参照。



福岡県地価帳

「地所取調帳」(明治8年～)、「総丈量反別地価帳」「総丈量野取図帳」「修正地価帳」(明治21・22年)他、明治前期福岡県下の土地台帳。概数1万点。1960(昭和30)年に九州大学中央図書館より九州文化史研究所が譲渡を受けました。『目録13・14』に収録。

楠野家文書

筑前国遠賀郡修多羅村等の庄屋・大庄屋を勤めた楠野家に伝来した文書群。福岡藩の夫役史料のほかに石炭関係の史料があります。概数2000点。1935(昭和10)年に九州帝国大学が寄贈をうけました。『目録15』に収録。

古野家文書

筑前国鞍手郡四郎丸村等の庄屋・大庄屋を勤めた古野家に伝来した文書群。福岡藩の法令や達のほかに明治期の炭鉱経営史料等があります。概数3200点。1933(昭和8)年に九州帝国大学が寄贈をうけました。『九州文化史研究所所蔵古文書目録15』に収録。

有松家文書

筑前国嘉麻郡綱分村庄屋・大庄屋を勤めた有松家に伝来した文書群。村の借財道付や福岡藩の交通夫役に関する史料があります。1958(昭和33)年に有松貞幹氏より寄贈を受けました。概数6300点。『目録16』に収録。

宇土細川家文書

近世大名肥後細川家の分家で宇土3万石を領した宇土細川家に伝来した文書群。内容は幕府、本藩関係、公武関係、文系関係など宇土藩政に関するもののほか、細川幽齋・忠興ゆかりの古文書が含まれています。概数4600点。1951(昭和26)年に九州大学が購入しました。『目録17』に収録。なお同家旧蔵書は九州大学附属図書館「細川文庫」にあります。

財津家文書

豊後国天領日田郡の庄屋家史料。戦国大名大友義鑑書状、近世農政・金融関係、明治期郡村行財政史料など。概数1100点。1984(昭和59)年に財津登氏より寄贈を受けました。『目録17』に収録。

三奈木黒田家文書

三奈木黒田家は、摂津国伊丹の豪族加藤又左右衛門の次男玉松が黒田孝高に養われて一家を立て黒田姓を与えられたことに始まります。黒田長政の筑前入国以来、下座郡三奈木村に知行地を与えられます。福岡藩の筆頭家老。福岡藩政史料。概数6000点。1955(昭和30)年に黒田一夫氏より譲渡を受けました。『目録18』に収録。『九州文化史研究所史料集1 福岡藩郡浦御用頭付』、『九州文化史研究所史料集2 福岡藩寛文・延宝期御用帳』参照。

吉田家文書

播磨国八代村の出身で、8代長利が小寺(黒田)孝高に仕え、吉田姓を与えられます。黒田孝高・長政の豊前・筑前入国に随い、福岡藩の家老の要職を歴任しました。福岡藩政史料・概数800点。1962(昭和37)年に吉田ハル氏より寄贈を受けました。『目録19』に収録。『福岡藩吉田家伝録 上・中・下』参照。

石本家文書

石本家は肥後国天領天草郡御領村を本拠に、土地経営と金融・商業活動を行います。商圈は九州諸藩、長崎から大坂におよびます。天保5年に石本平兵衛が幕府勘定方御用達となりました。1953(昭和28)年に石本勝之丞氏より寄贈を受け、1960(昭和35)年に分家文書、1969(昭和44)年には石本モト氏より追加寄贈を受けました。概数3万点。『目録21・22・23』に収録。

法制資料部門

法学研究院旧法制史資料室が所蔵していた近世から近代にかけての法制史料です。法学部研究室内(当時)に法制史資料室が設置されたのは1973(昭和48)年のことですが、当資料群の形成は1920年代にさかのぼります。九州帝国大学法文学部法制史講座担当の故金田平一郎教授が中心となって拡充された資料群は、江戸幕府法令・裁判例集、大坂町奉行所記録、福岡藩をはじめとする九州諸藩の法制に関する記録や庄屋文書など広範囲におよびます。明治憲法成立史関係資料、中国法制関係資料なども含まれています。概数4800点。九州大学附属図書館ホームページ九大コレクション貴重資料「法制史料」(<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/collections/hosei>)にて目録を公開しています(2019年2月大幅改訂)。



御評定所御載許御留書

古文書・古記録部門

三苦文書

2008年9月に記録資料館へ移設された旧玉泉館古文書のうち、筑前国怡土郡井原触大庄屋三苦家に伝来した文書群。福岡藩の農政および三苦家の地主経営に関する文書・記録。概数3800点。九州大学附属図書館ホームページ九大コレクション貴重資料にて目録を公開しています。玉泉館は旧制福岡高等学校教授玉泉大梁(1886-1971)が蒐集した考古資料や古文書を保存する施設として、1930(昭和5)年同校に開設しました。戦後、玉泉館とその資料は新制九州大学に移管され、1987(昭和62)年に玉泉館が解体されて以降は附属図書館六本松分館に資料が収蔵されてきましたが、現在は考古資料は九州大学総合研究博物館、古文書は記録資料館に保管されています。



三苦文書

檜垣文庫古文書

檜垣元吉名誉教授(1906-1988)の遺蔵資料。中世から近代にまで及ぶ約3万点の古文書を中心に、書画軸約300幅、和装本約2700冊、洋装本約2万冊、さらには美術品・民具500点、雑誌200種に及ぶ九州を中心とする歴史的総合資料群です。このうち古文書類(和装本含む)は2008年9月に記録資料館へ移設されました。『檜垣文庫目録』中世編、近世豊前国・筑後国編、近世筑前国編、近代福岡縣編、佐賀縣編、和装本編、追補1に収録。

(九州文化史資料部門 梶嶋政司)

「さよなら箱崎キャンパス企画展示 金田平一郎と九州大学附属図書館」

2018年3月1日～26日(旧・中央図書館(箱崎)3F回廊及び第2情報サロン)
監修:和仁かや(法制資料部門/法学研究院(展示開催当時))
梶嶋政司(九州文化史資料部門)
中川晃一(人文科学府博士後期課程)

箱崎キャンパスからの移転及びそれに伴う旧・中央図書館の閉館を目前に控えた2018年3月、九州大学附属図書館と同法学研究院との共催で、表題の展示を実施しました。第13代図書館長を務めた金田平一郎博士/九州帝国大学法文学部法科教授(1900-1949)は、近世日本法制史学のパイオニアの一人ですが、在任中に法制史料の蒐集に尽力するのみならず、記録資料館のルーツの一である昭和9(1934)年設立の九州文化史研究所でも当初から中心メンバーとして活躍し、現在の九州文化史・法制両資料部門の基礎を築きました。近年になって、博士の没後九州大学に納められていた旧蔵書の文庫化や、ご遺族からの博士所縁の貴重資料のご寄贈が実現したことで、戦前の法文学部における史料蒐集活動と学問基盤形成の実態が、新たな側面から具体的に解明されつつあります。

本展示では、改めて明らかになった法文学部の歩みとそれに重なる博士の経歴に沿うかたちで、金田文庫を含む法制史料、そして九州文化史所蔵史料を紹介しました。法文学部という学際的な環境下、意欲的な史料蒐集活動と一体となって展開された、債権法史や九州地域の比較研究といった博士の先駆的研究テーマは、当時九大の置かれた状況や果たすべき学問的使命を踏まえて独自の知的基盤を築こうとした重要な試みであるといえます。箱崎を拠点に実現したかかる蔵書・史料と研究活動との有機的な結び付きを多面的に示すべく、情報サロンでは、博士が館長を務めていた時代の旧図書館(保存図書館)や文系合同図書室の記録映像も含めた、博士の生涯と箱崎地区の図書館についてのショートムービーも上演しました。

会期中の3月10日(日)14時からは、監修者教員2名によるギャラリートークも行われ、多くの参加者を得て盛況でした。中でも記録資料館とも関わりの深い本学名誉教授の秀村選三先生にお越しいただき、博士との思い出も含めた戦後直後の大学や学問状況について展示史料を前にお話を伺えたのは、展示と併せて法文学部の学問伝統を実感する上で貴重な機会となりました。記録資料館、そして附属図書館の蓄積を丁寧かつ不断に確認する営みは、これから伊都キャンパスにおいて、研究・教育に果たし得るさらなる可能性を考える上で欠かせないものであり、本展示もその一つの契機となることを願っています。

展示パネル及び出品目録は附属図書館HP上(<http://hdl.handle.net/2324/1913973>)に掲載していますので、ご覧いただければ幸いです。

和仁かや(早稲田大学法文学部)



平成30年度記録資料館組織(平成30年4月1日現在)

記録資料館運営委員

委員長/坂上康俊

委員/宮本一夫、中野等、熊野直樹、清水一史、緒方一夫、三輪宗弘、宮地英敏、渡邊俊彦、有田淳

附属図書館

記録資料館長

坂上康俊

産業経済資料部門

三輪宗弘教授、宮地英敏准教授、北澤満准教授(複担)、古賀康士助教、末續直子職員、

九州文化史資料部門

中野等教授(複担)、伊藤幸司准教授(複担)、梶嶋政司助教

法制資料部門

五十君麻里子教授(複担)、和仁かや准教授(複担)

古文書・古記録部門

佐伯弘次教授(複担)、岩崎義則准教授(複担)

刊 行 物 紹 介

産業経済資料部門

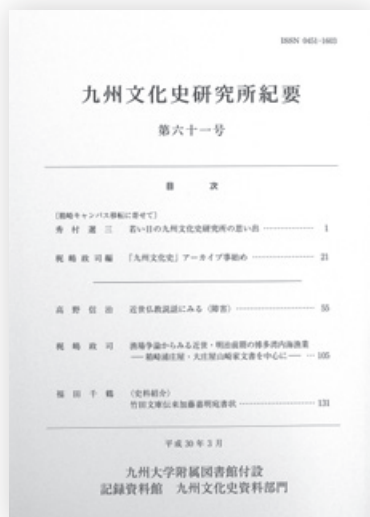
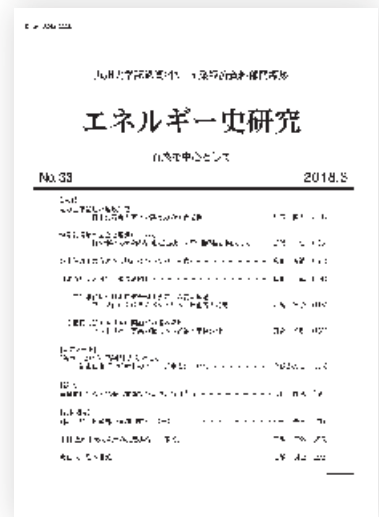
2018年は『石炭研究資料叢書』第39輯と『エネルギー史研究』第33号を刊行しました。

『石炭研究資料叢書』では、九州石炭鉱業連盟編『鉱員賃金制度要覧』(昭和28年12月)を影印復刻しました。戦後の労働運動の高まりのなか、経営者側の九州石炭鉱業連盟が賃金制度の改定などのために編輯した資料で、内容は詳細・多岐に渡ります。今後、戦後炭鉱の賃金制度を理解する上で活用が期待されます。

『エネルギー史研究』には、論説6本、研究ノート1本、報告1本、資料紹介3本と多くの論考が集まりました。

論説では、加藤健太が、日本発送電による東北振興電力株式会社の統合過程の分析を通じて、戦時下における国家利害と地域利害の対立構造を明らかにしています。三浦壮は、宇部炭田・沖見初炭鉱の経営権の移譲過程に着目し、外部資本と地元資本の関係性を軸に同炭鉱の創立と展開を明らかにしています。宮地英敏は、会津製磚子の官需採用を検討し、その背景にある人的要因や会津本郷焼の産地としての特徴を提示しています。横山尊は、炭鉱の社会的側面から、山本作兵衛が所属した日鉄二瀬禁酒聯盟に焦点をあてて、戦前の炭鉱禁酒会とその会員の実態を分析しています。また西尾典子は、1930年代の産業合理化政策化の安全運動においてスペシャリスト技術者が果たした役割に明らかにし、その産業史的意義を考察しています。加えて日高卓郎が、20世紀初頭アメリカの水資源開発事業・ソルトリバー(Salt River)事業を対象に、組織設計と職員パフォーマンスの関係を分析しました。

研究ノートでは、鳥飼かおるが「筑豊」の都市伝説を題材に地域イメージがどのように生成されるかを考察しています。報告では、吉田隆光が筑豊鉱山学校・筑豊工業高校の創設(1919年)から閉校(2005年)に至るまでの歴史と教育内容をまとめました。資料紹介では、秀村選三が戦時下の福岡県庁文書を、三輪宗弘が「中村隆英「炭鉱賃金決定機構一序説」」を、古賀康士が「奥田八二資料目録」をそれぞれ紹介しました。



九州文化史資料部門

『九州文化史研究所紀要』第61号は、箱崎キャンパス移転に寄せて秀村選三「若い日の九州文化史研究所の思い出」、梶嶋政司編「九州文化史」アーカイブ事始め」を特集したほか、三編の論考と史料紹介を収録しています。高野信治「近世仏教説話にみる〈障害〉」は近世日本における障害への意識のあり方を仏教説話から探っています。梶嶋政司「魚場争論からみる近世・明治前期の博多湾内海漁業」は城下町近郊の漁業の成り立ちについて論じました。福田千鶴「竹田文庫伝来加藤嘉明宛書状」は福岡藩藩儒竹田家に伝来した加藤嘉明宛書状について詳細な解題を付して紹介しています。

平成30年活動記録

3月1日～26日	展示「金田平一郎と九州大学附属図書館」(中央図書館)監修及び資料展示(文化史)
3月5日～23日	英国国立公文書館、大英図書館、帝国戦争記念館(産経・三輪教授)
3月15日	『エネルギー史研究』33号発行(産経)
3月20日～5月20日	展示「太宰府がみた明治維新」(太宰府市文化ふれあい館)へ資料貸出
3月30日	『記録資料館ニューズレター』12号発行
3月30日	『石炭研究資料叢書』39輯発行(産経)
3月31日	『九州文化史研究所紀要』61号発行(文化史)
3月31日	諸岡静児図書館職員異動
4月	西日本印刷末次氏より三池綴り3点(冊子)資料受入(産経)
5月28日～6月11日	メリーランド大学、米国立公文書館、米国会議図書館(産経・三輪教授)
6月13日	本多文子氏より貝島炭坑財務部記録5点資料受入(産経)
7月7日～9月2日	展示「海峡の幕末維新」(下関市立歴史博物館)へ資料貸出(文化史)
7月21日	手永制研究会(於西新プラザ)(文化史)
7月23日～8月7日	九州文化史資料部門、法制資料部門、古文書・古記録部門資料移転
7月24日	第36回記録資料館運営委員会
7月25日～9月30日	産業経済資料部門資料移転
8月1日～24日	旧保存図書館架蔵資料移転(文化史)
8月30日	九州文化史資料部門移転(文化史)
9月30日	末續直子事務担当職員配置転換
10月10日	八百啓介氏(北九州市立大学)調査来館(文化史)
10月27日～12月4日	展示「嘉麻・穂波の幕末維新展」(飯塚市歴史資料館)へ資料貸出
11月10・11日	第22回精神医学史学会・企画展示「夢のごとくの夢野久作」(於西南学院大学)に杉山資料を貸出(産経)
11月27日	糸田町教育委員会調査来館(文化史)

編集後記

記録資料館ニューズレターの第13号をお届けします。長年の課題であったキャンパスの移転・統合が、今年度ようやく実現の運びとなりました。記録資料館の利用にあたり長期に亘ってご迷惑・ご不便をおかけしましたが、昨年(平成30年)10月から伊都キャンパスでの本格始動を開始いたしました。節目の年にあたり、今回は改めて記録資料館の歴史を振り返るとともに、主な収蔵資料を紹介して、新天地での礎といたたく、特集を組んでおります。また、借旧のご活用を祈念して、利用案内も掲載しております。よろしくご参照ください。

九州大学附属図書館付設記録資料館 ニューズレター Vol.13

編集発行：九州大学附属図書館付設記録資料館

〒819-0395 福岡市西区元岡744

発行日：2019年3月

E-mail miwa.munehiro.535@m.kyushu-u.ac.jp(産業経済資料部門)

miyachi.hidetoshi.099@m.kyushu-u.ac.jp(産業経済資料部門)

bunka@lit.kyushu-u.ac.jp(九州文化史資料部門)

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/libraries/manuscript>